

令和7年12月末日

2025年12月末日

各従業員
お取引先の皆様へ

令和7年10月(第14期)決算のご報告

温泉の素.com株式会社
代表取締役 宮下季代子

平素は、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
別紙の通り、第14期の決算がまとまりましたのでご報告申し上げます。

〈はじめに・・・当期の主な動き〉

■設備投資 DX投資

スタンドピローパック自動充填包装機(7098万円)、ウェイトチェッカー(225万円)、フリーローラーコンベア(16万円)、小型回転テーブル(26万円)、センサー付流動度測定器(22万円)、商品在庫管理システム(168万円)、同システム入出庫業務 ハード環境設定(10万円)、タブレット3台(35万円)、電話ステータス確認ソフト(75万円)、FAX OCR(200万円)の購入、ホームページ機能改善およびSEO対策費用(100万円)、製造指示書システム × 付与機能(16万円)などに投資した。

■スタンドピローパック自動充填包装機の導入

従来、250gパッケージはスプーン投入、充填、閉塞、ラベル印刷、ラベル貼りを手作業で行っており、繁忙期や大量注文時には会社全体に大きな製造負荷がかかっていた。

9月より、250gおよび500g商品の製造を目的に、スタンドピローパック自動充填包装機を導入した。フィルム自社印刷の後、本機によりスプーン投入から充填、閉塞、ウェイトチェックまでの工程を一貫して自動化できるようになった。

その結果、スプーン入れとラベル貼り工数減を含めた包装工程における作業効率の向上および人的負荷の軽減を実現し、繁忙期においても安定した生産体制を確保するとともに、生産能力の向上につながった。

※1000種類以上ものパッケージデザイン変更が伴うので、1年かけて袋形態を移行していく。

■FAX OCR システムの導入

従来、FAXによる注文受付は、目視で確認し、ECサイト形式へ代行入力して処理していた。

当期、OCRを活用し、FAX注文を自動で取り込むシステムを構築した。

これにより、注文データ入力作業の自動化が可能となり、事務作業の効率化および人的負荷の軽減、入力ミス防止、処理スピード向上を実現した。

■商品在庫管理システムの導入

2023年5月より、注文の多い商品について、労働時間平準化および受注から発送までのリードタイム短縮を目的に、商品在庫を持つ生産体制へ切り替えた。

当初は需要予測が困難であったため、受注量の2～5倍を目安に生産し、商品在庫を多く保有する方針とした。(昨年)

商品在庫管理システムの開発は当初失敗に終わり、費用の大半を支払いながらも成果は得られなかった。(昨年)

当期は開発体制を見直し、別の開発会社により再構築を行い、システムは完成した。

これにより、需要予測への柔軟な対応が可能となり、商品在庫を持つ生産体制の効果が現れている。

■ホームページの修正

従来から、温泉施設様が EC サイト形式で注文できる仕組みを構築していたものの、注文比率は全体注文数の約 2 割にとどまり、伸び悩んでいた。

当期は、ホームページの機能改善および SEO 対策を実施し、検索時の視認性向上を図るとともに、操作性の改善による注文手続きの簡素化を行った。

その結果、EC サイト経由での注文比率は約 4 割に拡大し、今後も受注処理効率化が期待される。

■動画再生型のチャットボットの導入（月額 9 万円）

問い合わせ対応の増加および人手不足に伴う担当者の業務負担軽減を目的として、24 時間自動で説明を行う動画再生型チャットボットを導入した。

これにより、時間帯を問わず基本的な問い合わせ対応が可能となり、顧客利便性の向上ならびに問い合わせ対応業務の負担軽減につながっている。

今後さらに再生内容を充実させ営業員、営業事務員の負担軽減に努めていく。

■ビジネス向けコミュニケーションツール「LINE WORKS」を導入（月額 1 万円）

従来、社内連絡ツールとして個人の LINE を使用していたが、個人アカウント利用に伴う情報管理上の課題があった。

このため、社内連絡体制を見直し、情報を安全かつ適切に管理することを目的として、ビジネス向けコミュニケーションツール「LINE WORKS」を導入した。

■Anjane 株式会社の子会社となる

従来、抗菌美装株式会社は鈴木詠里子が 100%株主、温泉の素.com 株式会社は鈴木健太郎が 100%株主であったが、2024 年 6 月に両名を株主として Anjane 株式会社が設立された。2025 年 5 月には、抗菌美装株式会社および温泉の素.com 株式会社は Anjane 株式会社の傘下に入り、いずれも 100%子会社となった。

また、これまで当社が保有していた商標については、Anjane 株式会社へ商標権を移転した。

これに伴い、移行費用として租税公課 287 万円、支払手数料（弁理士費用）389 万円を支出している。

■Anjane 株式会社への資産売却

保有資産のうち 57 品目を Anjane 株式会社へ売却した。

本件により、固定資産売却益 52 万円、固定資産売却損 133 万円を計上している。

■BCP

従来から耐震補強等の防災対策を実施してきたが、南海トラフ地震の発生を想定し、布団、食料、発電機をはじめとする各種備蓄品を購入した。

■損益計算書 内訳は比較損益計算書をご覧ください。

【売上】 売上高は 27,949 万円 (対前年比+2,743 万円=110.9%)

内訳:「温泉の素」対前年比 +2,735 万円=111.2%

「化粧品」 対前年比 +7 万円=100.9%

売上増加の主因は「温泉の素」の伸長であり、安定した需要に加えて価格改定も増収に寄与した。温泉の素の売上高は 27,055 万円となり、入浴剤事業は今後も成長が見込まれる。

内訳は、

企業向け入浴剤が+1,618 万円 (134.8%)

施設向け入浴剤が+1,115 万円 (105.5%)

いずれも増収となった。

一方、「化粧品」は売上高 894 万円と前期水準をほぼ維持した。前期に大きな伸びがあった反動もあり、当期は横ばいで推移している。

内訳では、

オールインワンジェルが+10 万円 (108.8%)

フェイスマスクは-11 万円 (98.5%)

となった。

【仕入】 仕入 8,207 万円 (対前年比+719 万円=109.6%)

内訳:「温泉の素」 7,645 万円 対前年比+623 万円=108.9%

「化粧品」 131 万円 対前年比+78 万円=247.9%

「期首棚卸高」 3,845 万円 対前年比-424 万円=90.1%

「期末棚卸高」 3,405 万円 対前年比-440 万円=88.6%

スタンドピローパック自動充填包装機の導入が決まっていたため、本来であれば繁忙期に向けて商品在庫を増産するところを見送った結果、棚卸高が減少した。

【販売費及び一般管理費】 18,688 万円 (対前年比-405 万円=97.9%)

給与手当: -126 万円 (98.0%)

従業員数の変動 前期:26~31 名 当期:26~28 名

通信費: -24 万円 (59.8%)

後納郵便利用の減少 前期:40 万円 当期:21 万円

荷造運賃: -37 万円 (91.2%)

展示会関係の運賃 前期:34 万円 当期:16 万円

スタンドピローパック自動充填包装機の導入を 9 月に予定し、ギフトショーと重なり、出展を見送ったため。

配送料減 前期:390 万円 当期:372 万円

売上は 10%増加している一方で、配送料は減少している。

従来は大量配送をカゴ車で行っていたが、パレット配送に切り替えたことで配送料の削減に成功した。

水道光熱費: +119 万円 (131.8%)

水道、電気、ガス全てにおいて上昇。

旅費交通費: -175 万円 (80.8%)

[前期] [当期]

展示会:72 万円 展示会:67 万円

台湾 :189 万円 沖縄 :35 万円

広告宣伝費：－39 万円 (92.9%)

[前期]

[当期]

展示会関連：199 万円

展示会関連：108 万円

ポイント残高：324 万円

ポイント残高：406 万円

コーポレートサイト：23 万円

接待交際費：－96 万円 (48.5%)

[前期]

能登半島地震御見舞金：12 万円

取引先接待：42 万円

スポ GOMI 協賛：18 万円

消耗品費：－163 万円 (76.0%)

[前期]

[当期]

喫煙室工事備品：21 万円

BCP：82 万円

展示会用備品：63 万円

研究室消耗品：121 万円

パソコン用白木台：27 万円

(HPLC カラム、超純水装置等)

中 2 階デッキ用合板：34 万円

デスク、ホワイトボード等：4 万円

1 階レイアウト変更備品：48 万円

運搬台車等：28 万円

パソコン・モニター等：55 万円

ファンヒーター：20 万円

塗料(12 月、1 月、7 月)：23 万円

修繕費：＋77 万円 (121.1%)

[前期]

[当期]

Wi-fi 修繕：28 万円

製造室修繕：249 万円

超純水装置：25 万円

コンクリート修繕：87 万円

喫煙室修繕：31 万円

1 階修繕：160 万円

車両燃料費：－18 万円 (75.0%)

前期の 11 月(10 月利用)の燃料費が多かった(22 万円)

車両費：－76 万円 (43.7%)

[前期]

プリウス修理：25 万円

タイヤ：29 万円

フォークリフト修理：20 万円

ハイエース修理：18 万円

保険料：－10,360 (99.8%)

中小企業倒産防止共済については、当期に 240 万円 を拠出した。

これまでの累計拠出額は 740 万円 となっており、残り 60 万円の拠出で上限額(800 万円)に到達する。

租税公課：±204 万円 (346.0%)

商標出願、更新、登録印紙代：187 万円

固定資産税の増 前期:58 万円 当期:72 万円

賃借料: +64 万円 (0.0%) 前期 0 万円

2024 年 12 月に Anjane へ資産を売却し、売却した資産のリース料を毎月支払っている。

システム利用料: +31 万円 (105.9%)

FAX OCR:8 万円/月

RPA:5 万円/月

動画再生型のチャットボット:9 万円/月

LINE WORKS:1 万円/月

マーケティングオートメーションツール 前期:153 万円 当期:40 万円

支払手数料: +176 万円 (182.6%)

秀友特許商標事務所 商標出願、商標更新、権利移転:229 万円があったため

減価償却費: -230 万円 (91.4%)

[前期] 2,678 万円 [当期] 2,448 万円

管理諸費: +9 万円 (133.5%)

2024 年 8 月よりエレベーター保守料金支出:0.8 万円/月

【営業利益】 1,054 万円 (対前年比+2,429 万円=176.7%)

[営業外収益]-3,810 万円 前期、補助金収入が 4,230 万円あった。

太陽光発電:103 万円

法人税等還付金等:445 万円

補助金収入:雇用開発助成金:30 万円

[営業外費用]・・・利息 117 万円(+13 万円)

補助金支出:社労士事務所:4 万円

【経常利益】 1,521 万円 (対前年比-1,254 万円=54.8%) 補助金収入がなくなった。

【特別利益】 固定資産売却益:52 万円

【特別損失】 固定資産売却損:133 万円

【当期利益】 1,421 万円 (対前年比+3,601 万円=165.2%)

【損益計算書の総論】

主力製品「温泉の素」を中心とした販売拡大と価格改定により、売上高は前年比+2,743 万円と堅調に推移した。当社は、オリジナル製品の開発力、小ロット生産が可能な製造体制、営業から製造・出荷までを担う社内一貫体制、既存の営業チャネルを強みとしている。一方で、手作業工程が多く、人件費が増加しやすい構造であることが課題である。

当期、スタンドピローパック自動充填包装機の活用により、250g・500g 製品の手作業工程を大幅に削減し、充填・閉塞作業の省人化と作業効率の向上を図る礎を築いた。今後は生産体制の安定化を図るとともに、創出された余力を他工程や付加価値の高い業務へ振り分ける方針である。

一方で、少数精鋭体制を行っていくために、自動機械やシステム改善への投資が必要であり、今後も減価償却費の増加が見込まれる。

■貸借対照表

【流動資産】 13,625 万円 (対前年比+2,601 万円=123.6%)

(現金・預金内訳)

現金	300,000 円
小口 現金	65,391 円
従業員小口現金	100,000 円
J Aバンク	2,833,560 円
J A 小口	206,458 円
PayPay 銀行	20,599,567 円
けんしん	26,835,859 円
八十二銀行	15,429,598 円
しんきん	1,000 円
定期預金 (J A)	1,000,925 円
定期積金(八十二)	9,998,902 円

現金・預金 計 77,371,260 円 (対前年比+37,595,795 円=194.5%)

仕掛品 25 万円 (-71 万円)

商品 538 万円 (-758 万円) 25g・250g 商品共に在庫半減

原材料 2,841 万円 (+390 万円) スタンドピローパック自動充填包装充填機導入による
材料増(スプーン、フィルム)

香料: +150 万円、ラミジップ包材+150 万円

自社印刷フィルム: +120 万円

売掛金や受取手形は本紙作成時点ですべて現金化していて不良債権はない。

【固定資産】

10,172 万円 (対前年比+5,334 万円=210.2%)

当期取得したものは、

スタンドピローパック自動充填包装機:7,098 万円、ウエイトチェッカー:225 万円、
フリーローラーコンベア:16 万円、小型回転テーブル:26 万円、センサー付流動度測定
器:22 万円、商品在庫管理システム:168 万円、同システム入出庫業務 ハード環境設定:10
万円、タブレット (3 台):35 万円、電話ステータス確認ソフト:75 万円、FAXOCR:200 万円、
ホームページ機能改善および SEO 対策:100 万円、製造指示書システム ×付与機能(16 万
円)、iPhone15:11 万円など ※下線=抗菌美装株式会社と共同購入

【流動負債】 2,611 万円 (対前年比+1,373 万円=210.9%)

買掛金 1,305 万円 (+466 万円) は通常の買掛けである。

未払金(ネットポイント)803 万円 (+447 万円)

【固定負債】 16,823 万円 (対前年比+5,320 万円=145.1%)

長期借入金内訳 長野県信用組合 9,630 万円 (+6,540 万円)

当期借入 7,200 万円

当期、設備投資資金として借入

(保証協会付き融資 年利 1.1% 10 年)

毎月返済額:115 万円 (+月 60 万円返済)

八十二銀行 6,234 万円 (-1,240 万円)

毎月返済額:103 万円 ×12 ヶ月=1,236 万円

日本政策金融公庫 639 万円 (-187 万円)

毎月返済額:15 万円 ×12 ヶ月=180 万円

鈴木健太郎 320 万円 (+120 万円)

毎月 10 万円借入

2025 年 10 月に 7,200 万円を借り入れた。保証協会付き融資であるが、長野県飯田市保証協会分の利子補給 100%、計 252 万円があり、かつ金利上昇傾向かつ 1.1%の利率なので、60 万円×10 年固定で借り入れた。

銀行の借入返済は約定どおり続けている。

2025 年 11 月時点の毎月の返済額 233 万円である。

【株主資本】 4,457 万円 (対前年比+1,421 万円=146.8%)

【貸借対照表の総論】

当期は主力の温泉の素事業の堅調な売上により手元資金が増加し、財務基盤は安定している。売掛金・受取手形は全額回収済みで、不良債権はなく資金繰りに問題はない。

株主資本は前年同期比で増加し、財務状況は良好である。

一方、DX 関連システムやスタンドピローパック自動充填包装機などの大型設備投資により固定資産・長期借入金は増加したが、いずれも作業効率向上や人手削減、将来の成長を見据えた計画的な投資である。来期はこれら設備・システムを活用した製造工程の効率化を進め、人件費抑制と収益性改善を図るとともに、温泉施設以外の業界への進出も検討する。

【第 15 期の重点施策】

■売上面

＜温泉の素、入浴剤分野＞

温泉施設向け事業の拡大と新市場開拓を重点施策と位置付ける。全国 1,800 以上の取引先との関係を活かし、リピート受注の拡大に注力することで、安定した売上の確保とシェア維持・拡大を目指す。

一方、入浴剤のみの取り扱いで取引先との接点が少なく、関係性が十分に強化されていないことから、競合にシェアを奪われるリスクがある。実際に、長年取引のあった施設が他社商品へ切り替わる事例も発生しており、顧客の流出に対応するため、表敬訪問や提案営業を通じた接点強化と関係性の維持が、優先度の高い課題となっている。

市場環境は、国内旅館・ホテル市場が過去最高水準に回復し、インバウンドや国内旅行需要の増加により、温泉施設や宿泊施設の稼働率が上昇している。成長市場や高稼働率施設をターゲットとすることで、新規顧客開拓の余地は大きい。

さらに、新商品の開発により入浴剤以外の商品も取り扱い、売上の幅を広げるとともに、雑貨店、ホームセンター、ドラッグストア、スーパーマーケットなど温泉施設以外の業界への進出を探る。これにより既存市場への依存を軽減し、売上の安定化と新規顧客開拓を同時に実現する。開発スピードと提案力を強化し、競合他社との差別化を図ることで、事業の持続的成長を目指す。

＜化粧品分野＞

化粧品分野においても、温泉の素と同様にリピート受注の拡大に注力する。取引先との関係性を強化し、顧客の他社流出を防止するため、表敬訪問や提案営業を通じた接点強化を実施する。これにより、安定した売上の確保と市場シェアの維持・拡大を目指す。

＜温泉の素、入浴剤、化粧品、共通＞

製品認知度向上および販路拡大を目的として、以下 4 つの展示会への出展を検討。

- ① 国際ホテル・レストランショー HCJ2026 （毎年出展中）
2026 年 2 月 17 日（火）～20 日（金）
- ② 第 26 回 JAPAN ドラッグストアショー （新規チャレンジ）
2026 年 7 月 31 日（金）～8 月 2 日（日）
- ③ 第 62 回 JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2026 （新規チャレンジ）
2026 年 8 月 27 日（木）～29 日（土）
- ④ レジャー&アウトドアジャパン （新規チャレンジ）
2026 年 11 月 25 日（水）～27 日（金）

展示会出展により、温泉施設・小売業界・DIY 市場・レジャー関連業界への製品訴求を強化し、新規顧客開拓および既存顧客との関係維持を図る。

■設備投資

〈温泉の素、入浴剤 共通〉

- ・当期導入したスタンドピローパック自動充填包装機の設備改善(リフト導入、階段設置、パイロットランプ設置、操作モニターの増設)などを行っていく。
- ・ロボット掃除機
- ・印刷機のロールフィルム持ち上げ改善
- ・シュリンク機の入替
- ・原料在庫等管理システムの導入

その他、抗菌美装株式会社がメインで製造する塩素剤の生産ラインにおいて、4月に自動器具洗浄乾燥機(1,600万円)を抗菌美装株式会社に投資して頂き、導入予定である。現在は手洗い・器具洗浄機・エアブロー・乾燥機と複数工程を人手で移し替えて洗浄乾燥していたが、導入後はコンベアに乗せるだけで洗浄から乾燥まで自動化する。入浴剤製造ラインでも利用することで、作業手間の削減と効率向上を実現する。

■2026年価格改定

当社では、原材料費・物流費の上昇や人件費増加など、企業努力だけでは吸収が困難なコスト圧力の高まりを受け、品質維持と持続的な事業成長を図るため、2026年に2回に分けて価格改定を実施する予定である。

〈対象商品〉

①2026年3月1日改定:フェイスマスク・オールインワンジェル・業務用入浴剤商品

②2026年10月1日改定:温泉の素

当期は主力製品の販売が堅調に推移し、利益を確保しておりますが、今回の改定は2025年1月に続く2年連続の価格改定となる。利益を確保した上での値上げではあるが、将来の安定経営とサービス品質維持を最優先に判断したものであることをご理解いただきたい。今後も効率的な生産体制の構築や資材調達の最適化など、企業努力を継続し、高品質な製品とサービスの提供に努めていく。

■試作一時停止予定期間

本紙作成時点は年末の繁忙期であり、製造量が大幅に増加していることから、2025年12月1日～2026年1月9日の期間、試作業務(新規・修正を含む)および校正業務を一時停止することとした。期間中は他部署の従業員を製造部に配置し、製造支援を行った。この人員配置により、従来の繁忙期に発生していた残業時間を約半減させることに成功した。また、同配置は製造研修も兼ねており、特定担当者に限定されていた業務が他の従業員でも対応可能であることを確認した。

今後も、試作一時停止期間を年間スケジュールに組み込み、期間中は製造支援に従事することとする。

試作停止予定期間 (年間スケジュール)

- ・3月21日～4月20日
- ・7月21日～8月20日
- ・11月21日～1月9日

■化粧品・医薬部外品の製造業の免許更新

2026年2月に5年更新の時期となる。2025年12月に長野県薬事課が更新のための立入りに来られ更新可の判断がなされた。

■来期に向けて

当期同様、来期も設備投資を行う。今後の成長に向けた基盤作りとして、さらなる効率化を進めるために、自動化設備の導入に注力していく。

○原料在庫の管理システム及び自動発注

現在、原料在庫を目視で確認し、製造指示書の必要量から従業員が発注している。これをシステム構築し、毎月棚卸しを実施した上で、必要量を自動発注するようにする。同時に同一成分原料・同一メーカー原料を2社購買できる仕組みとする。

○当期、社内資格制度として、5Sテストを実施し、結果に応じて「指導者」「1級」「2級」「3級」「4級」の5段階で等級認定を行った。今後は年2回、3月と9月に実施する予定である。

○2024年7月より講師を招き、日商簿記の勉強を始め、2024年12月末までに11名が3級に合格した。引き続き、私を含め5名が2級に挑戦しており、本紙作成時点で3名が合格し、工業簿記の基礎を習得している。残る2名も次回試験日に向けて学習を継続中である。

○AI研修やフォークリフト運転技能講習、日本化粧品検定などの資格取得を積極的に進めている。これらの取り組みにより、従業員一人ひとりの専門知識や業務遂行能力の向上が図られ、業務効率化や品質向上を通じて、組織全体の生産性および業績向上への寄与が期待される。

■その他

当期、会社設立初の大規模設備投資を9月に行った。当期は決算月までの2ヶ月間の減価償却となったが来期は12か月分の減価償却となる。

期首時点での減価償却費は3,611万円（当期2,448万円）であり、高額の償却費により来期は赤字決算になることも想定済みである。

少なくとも減価償却額程度は、返済をしておくべきなので、金融機関とも相談しながら返済を検討する。（もしくは預金をプールしておく）

一方で、1%未満のプロパー融資などは返済してしまうと次に借りるときに1%を超えることは容易に想像できるのでしっかりと検討したい。

比 較 決 算 報 告 書

(第 14 期)

自 令和 6 年 11 月 1 日

至 令和 7 年 10 月 31 日

温泉の素. c o m 株式会社

長野県飯田市中村 1 7 5 8 番地 2

比 較 貸 借 対 照 表

令和 7 年 10 月 31 日現在

資 産 の 部				
科 目	当 期	前 期	増 減	増減率
	円	円	円	%
【流 動 資 産】	[136,258,059]	[110,245,866]	[26,012,193]	[23.6]
現 金 及 び 預 金	77,371,260	39,775,465	37,595,795	94.5
受 取 手 形	0	3,321,459	△3,321,459	△100.0
売 掛 金	24,459,238	27,827,218	△3,367,980	△12.1
商 品	5,384,900	12,974,700	△7,589,800	△58.5
原 材 料	28,418,831	24,513,070	3,905,761	15.9
仕 掛 品	251,465	968,394	△716,929	△74.0
前 払 金	300,568	440,000	△139,432	△31.7
未 収 入 金	71,797	85,060	△13,263	△15.6
A n j a n e 株	0	340,500	△340,500	△100.0
【固 定 資 産】	[101,727,370]	[48,385,908]	[53,341,462]	[110.2]
(有形固定資産)	(95,994,211)	(46,743,556)	(49,250,655)	(105.4)
建 物	3,538,854	3,921,431	△382,577	△9.8
建 物 付 属 設 備	174,934	709,334	△534,400	△75.3
機 械 装 置	88,114,041	33,681,425	54,432,616	161.6
車 輛 運 搬 具	2,342,397	4,373,743	△2,031,346	△46.4
工 具 器 具 備 品	1,823,985	3,990,955	△2,166,970	△54.3
一 括 償 却 資 産	0	66,668	△66,668	△100.0
(無形固定資産)	(4,511,334)	(639,227)	(3,872,107)	(605.7)
ソ フ ト ウ ェ ア	4,511,334	639,227	3,872,107	605.7
(投資その他の資産)	(1,221,825)	(1,003,125)	(218,700)	(21.8)
保 険 積 立 金	1,221,825	1,003,125	218,700	21.8
【繰 延 資 産】	[935,617]	[18,950]	[916,667]	[*****]
預 託 金	18,950	18,950	0	
繰 延 資 産	916,667	0	916,667	
資 産 の 部 合 計	238,921,046	158,650,724	80,270,322	50.6

比 較 貸 借 対 照 表

令和 7 年 10 月 31 日現在

負 債 の 部				
科 目	当 期	前 期	増 減	増減率
	円	円	円	%
【流 動 負 債】	[26,111,968]	[12,378,397]	[13,733,571]	[110.9]
買 掛 金	13,056,087	8,389,744	4,666,343	55.6
未 払 金	427,720	333,559	94,161	28.2
未払金 (ネットバンク)	8,039,761	3,563,794	4,475,967	125.6
未 払 法 人 税 等	182,500	91,300	91,200	99.9
未 払 消 費 税	4,405,900	0	4,405,900	
【固 定 負 債】	[168,238,000]	[115,918,000]	[52,320,000]	[45.1]
長 期 借 入 金	165,038,000	113,918,000	51,120,000	44.9
長期借入金役員	3,200,000	2,000,000	1,200,000	60.0
負 債 の 部 合 計	194,349,968	128,296,397	66,053,571	51.5
純 資 産 の 部				
【株 主 資 本】	[44,571,078]	[30,354,327]	[14,216,751]	[46.8]
(資 本 金)	(20,000,000)	(20,000,000)	(0)	
資 本 金	20,000,000	20,000,000	0	
(利 益 剰 余 金)	(24,571,078)	(10,354,327)	(14,216,751)	(137.3)
繰越利益剰余金	24,571,078	10,354,327	14,216,751	137.3
純 資 産 の 部 合 計	44,571,078	30,354,327	14,216,751	46.8
負債及び純資産の部合計	238,921,046	158,650,724	80,270,322	50.6

比 較 損 益 計 算 書

科 目	当 期	前 期	増 減	増減率
	円	円	円	%
【純 売 上 高】	[279,498,653]	[252,063,426]	[27,435,227]	[10.9]
温泉の素売上高	270,557,640	243,200,224	27,357,416	11.2
化粧品売上高	8,941,013	8,863,202	77,811	0.9
【売 上 原 価】	[82,073,641]	[74,881,433]	[7,192,208]	[9.6]
期首棚卸高	38,456,164	42,697,718	△4,241,554	△9.9
温泉の素仕入高	76,455,014	70,216,132	6,238,882	8.9
化粧品仕入高	1,311,570	529,092	782,478	147.9
仕入値引戻し高	△93,911	△105,345	11,434	△10.9
合 計	(116,128,837)	(113,337,597)	(2,791,240)	(2.5)
期末棚卸高	34,055,196	38,456,164	△4,400,968	△11.4
売上総利益	(197,425,012)	(177,181,993)	(20,243,019)	(11.4)
【販売費及び一般管理費】	[186,880,673]	[190,934,850]	[△4,054,177]	[△2.1]
営 業 利 益	(10,544,339)	(△13,752,857)	(24,297,196)	(△176.7)
【営 業 外 収 益】	[5,889,554]	[43,994,387]	[△38,104,833]	[△86.6]
受 取 利 息	102,915	5,744	97,171	*****
補助金収入	300,000	0	300,000	
売 電 収 入	1,034,259	1,124,857	△90,598	△8.1
補助金収入	0	42,300,000	△42,300,000	△100.0
雑 収 入	4,452,380	563,786	3,888,594	689.7
【営 業 外 費 用】	[1,216,252]	[2,477,539]	[△1,261,287]	[△50.9]
支 払 利 息	1,176,252	1,037,539	138,713	13.4
補助金支出	40,000	1,440,000	△1,400,000	△97.2
経 常 利 益	(15,217,641)	(27,763,991)	(△12,546,350)	(△45.2)
【特 別 利 益】	[520,018]	[0]	[520,018]	
固定資産売却益	520,018	0	520,018	
【特 別 損 失】	[1,338,408]	[45,345,944]	[△44,007,536]	[△97.0]
固定資産売却損	1,338,408	0	1,338,408	
棚卸廃棄損	0	2,159,580	△2,159,580	△100.0
固定資産圧縮損	0	42,000,000	△42,000,000	△100.0
特 別 損 失	0	1,186,364	△1,186,364	△100.0
税引前当期純利益	(14,399,251)	(△17,581,953)	(31,981,204)	(△181.9)
法人税、住民税及び事業税	182,500	4,217,700	△4,035,200	△95.7
当 期 純 利 益	(14,216,751)	(△21,799,653)	(36,016,404)	(△165.2)

自 令和 6 年 11 月 1 日

至 令和 7 年 10 月 31 日

比較販売費及び一般管理費

科 目	当 期	前 期	増 減	増減率
	円	円	円	%
広 告 宣 伝 費	5,204,394	5,600,090	△395,696	△7.1
荷 造 運 賃	3,899,977	4,278,345	△378,368	△8.8
役 員 報 酬	9,192,000	10,460,000	△1,268,000	△12.1
給 与 手 当	63,112,694	64,380,691	△1,267,997	△2.0
雑 給	12,745	0	12,745	
法 定 福 利 費	9,125,201	9,170,975	△45,774	△0.5
福 利 厚 生 費	4,908,290	5,433,006	△524,716	△9.7
減 価 償 却 費	24,481,921	26,784,365	△2,302,444	△8.6
人 材 派 遣 費	922,800	0	922,800	
修 繕 費	4,424,300	3,653,990	770,310	21.1
事 務 用 品 費	1,250,449	1,276,198	△25,749	△2.0
消 耗 品 費	5,192,340	6,830,985	△1,638,645	△24.0
水 道 光 熱 費	4,938,911	3,746,118	1,192,793	31.8
旅 費 交 通 費	7,383,650	9,137,220	△1,753,570	△19.2
支 払 手 数 料	3,898,544	2,135,144	1,763,400	82.6
租 税 公 課	2,874,885	830,914	2,043,971	246.0
交 際 接 待 費	909,083	1,872,954	△963,871	△51.5
保 険 料	6,125,362	6,135,722	△10,360	△0.2
通 信 費	366,580	613,176	△246,596	△40.2
諸 会 費	258,500	242,000	16,500	6.8
車 輜 費	1,151,792	2,101,693	△949,901	△45.2
新 聞 図 書 費	2,273	59,133	△56,860	△96.2
地 代 家 賃	20,379,148	20,303,148	76,000	0.4
研 修 費	63,408	209,424	△146,016	△69.7
研 究 開 発 費	71,047	18,556	52,491	282.9
管 理 諸 費	366,600	274,600	92,000	33.5
賃 借 料	649,100	0	649,100	
雑 費	87,974	72,514	15,460	21.3
システム利用料	5,626,705	5,313,889	312,816	5.9
販売費及び一般管理費	(186,880,673)	(190,934,850)	(△4,054,177)	(△2.1)